



# 悠紀たよい

甲府市立石田小学校  
令和3年10月21日  
Vol. 6  
校長 雨宮秀樹

## 本校の学力・学習状況をお知らせします

本年度の全国学力・学習状況調査は5月27日（木）に、全国の小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象に実施されました。本校でも、6年生51名が参加しました。

調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・算数）と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。

この調査は、本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導内容・指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的とします。

去る7月27日（火）に文部科学省から本校の結果が送られてきました。その結果を受けて調査結果の分析を行ってまいりました。この度分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思います。

なお、調査に参加しました6年生一人一人には、個人票をもとに、具体的に課題等について説明していく予定です。よろしくお願ひいたします。

## 分析結果の概要

### 1 本校の状況（全国との比較）

本校の結果は、国語、算数の2科目とも数値としては、全国平均をやや上回っており、本校の6年生の学力・学習状況は全国平均とほぼ同等であると分析されます。この調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもあるように、全国平均正答率のプラスマイナス5ポイントの範囲にあるものは、ほぼ同等であると考えています。

### 2 教科ごとの状況と課題（○は結果が良好なもの、□は課題と思われるもの）

#### 国語

(1) 全国平均を上回っている設問としては、以下が挙げられる。

- これまで学年別配当表に記されている漢字を読んだり書いたりするところに課題が見られていたが、本年度は正答率が全国平均と同等もしくは大きく上回っている。
- 目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる問題では、全国平均を上回っている。
- 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、全国平均を上回っている。

(2) 全国平均とほぼ同等だが、本校における課題として考えられる設問としては、以下が挙げられる。

- 1 学年別配当表に記されている漢字を文の中で正しく使う問題では、「積」を文の中で正しく使うことに課題があると考えられる。「重」や「罪」と解答したり、音読みで同じ読み方をする「績」と解答したりしている児童が見られた。
- 2 目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題では、文章から必要な情報を見付けることはできているが、図から必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることができていない児童がみられた。

- 3 文章全体の内容を正確に把握した上で、条件を満たすのに必要な情報を見付けることができていない児童がみられた。
- 4 文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかを答える問題は、「すぐに」が動きを表す語句に係って詳しくすることは理解できているが、文の中でどの語句に係るかを理解できていない児童がいる。また、文の意味を捉えずに、「すぐに」が直後にある「遊具を」に係っていると捉えた児童もみられた。
- 5 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかに答える問題では、複数の情報を比べる場合の言い方である「～は～より…」と同じ使い方の文を捉えることができなかった児童や「より」が原因を表していることを捉えることができなかつた児童がみられた。
- 6 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、反対する意見は書けていたり、必要な言葉や文を取り上げて書けているが、反対する理由を書いたりしていない児童や自分の考えとそれを支える理由とのつながりが明確になるように記述できていない児童がみられた。また、無解答の児童も他の設問と比較すると若干多かった。

### 算 数

- (1) 全国平均を上回っている設問としては、以下が挙げられる。
- 速さを求める除法の式と商の意味を答える（二つの速さを求める式の意味（速さの意味）について正しいものを選ぶ）問題。
  - 棒グラフから、項目間の関係を読み取る（本の貸し出し冊数について棒グラフからわかるのを選ぶ）問題。
  - 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述する（帯グラフから割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く）問題。
  - 商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算する（8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める。）問題。
  - 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述する（30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く）問題。

- (2) 全国平均とほぼ同等だが、本校における課題として考えられる設問としては、以下が挙げられる。
- 1 三角形の面積の求め方についての理解をみる問題では、水平な辺が底辺だと捉えており、三角形の底辺や高さの関係についての理解が不十分な児童がみられた。また、三角形の面積を求める公式についての理解が不十分で、示された全ての辺の長さに着目して立式しており、図形を見て必要な情報を選び出すことができない児童がみられた。
  - 2 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題では、求め方を言葉で説明できていなかつたり、平行四辺形の斜辺の長さを高さと誤って計算したり、二等辺三角形の性質や平行四辺形の面積を求める公式についての理解が不十分だったりする児童がみられた。

### 3 教科における主な改善点

#### 国 語

- ※1 漢字の学習指導に当たっては、日常生活の中で適切に使うことができるようにしていく。そのために、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるようにしていく。また、必要に応じて、漢字を使って、文や文章を書く機会を設定していく。
- ※2 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける指導をする。「必要な情報を見付ける」とは、文章の中から、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることである。児童が実生活において触れる文章には、図表やグラフなどを含んでいる。そのような文章を読む際に、文章中に用いられている図表などが、文章のどこと結び付くのかを明らかにした上で、文章と図表などの関係を捉えて読むができるように指導する。この際、図表から

必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりする指導を行うようにする。

※3 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する指導をする。要約するとは、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることである。同じ文章でも、要約する目的によって内容の中心となる語や文は異なる場合がある。文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することが大切である。要約する分量などについても目的に応じて考えることが必要である。同じ文章を読んでも、読み手の目的によって内容の中心となる語や文は異なるため、要約した文章も異なるものになることを確認するようにする。

※4 修飾と被修飾との関係に気をつけて、文の構成を理解することは、自分の思いや考えをより適切に表現するうえで重要であることに気付かせていく。この設問では、「すぐに」が「かたづける」という動きを表す語句を詳しくしていることを捉えさせ、修飾語は動きを表す語句を詳しくする場合と、ものや人などを詳しくする場合があることを理解させる必要がある。そのために、修飾語を加えて文を詳しくしたり、修飾語がどの語句を詳しくしているのかをはっきりさせたりすることを指導する。また、修飾語は直前や直後の語句を詳しくすると捉えてしまうことがあるため、離れた語句を修飾する場合もあることを理解させていく。

※5 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う指導をする。思考に関わる語句の使われ方を適切に捉えることは、筆者が伝えたいことを正確に捉えることにつながる。複数の情報を比べる場合の語句に着目して読んだり、話や文章の中で適切に使ったりすることが重要である。

※6 異なる立場の考え方に対して、反対する意見を伝えるために他の事例を具体的に取り上げて説得力を高める必要がある。そのために、異なる立場の意見を取り上げ、それに対する自分の考えを明確にできるようにしていく。例えば、他者にインタビューやアンケート調査などを行い、他者の視点や異なる立場の考え方を自分の意見に活かすようにする。

## 算 数

※1 図形の面積の学習の公式を導き出す過程において、図形のどこかの長さに着目すると、面積を求めることができるのかを理解できるようにする。また、公式を用いて面積を求める際に、底辺と高さの関係を理解し、必要な情報を選び出すことができるよう指導致する。例えば、水平な辺を底辺としている場合だけでなく、水平になっていない辺を底辺としている場合について、必要な情報を選び出し、面積を求めるができるようする。また、面積を求める上で必要な情報が不足している場合についても、他にどこかの長さが必要となるかを考え、面積を求めるができるよう指導致する。

※2 図形の面積の学習において、複数の図形を組み合わせた図形について、面積を求めるために必要な辺の長さや高さを、組み合わせる図形の辺の長さや高さから求めるなど、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えるようする。面積を求めようとする図形の辺の長さや位置関係、分かっている図形の辺の長さや位置関係を捉え、面積の求め方について筋道を立てて説明できるよう指導致する。例えば、方眼上の台形の面積を求める公式を導くために等積変形をしたり、合同な図形を組み合わせて平行四辺形に変形したりする際に、変形する前の図形と変形した後の図形の関係を説明する活動を行う。また、平行四辺形の面積を求める公式を導く際に、平行四辺形を長方形に等積変形して面積を求める活動を行う。台形や平行四辺形の面積を等積変形して求める場合には、底辺と高さの位置関係を意識させるような指導致する。

## 4 質問紙調査の主な特徴（全国との比較）

質問紙調査は、実際の調査用紙が「この調査は、皆さんの学校や家の勉強や生活の様子について尋ねるもので」という説明から始まるように、子どもたちの学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸侧面等に関する質問紙調査（例：国語への興味関心・授業内容の理解度・読書時間・家庭学習の状況等）です。

子どもたちの更なる成長にいかすという観点で、石田小学校の質問紙調査の結果を分析しました。本校において大切にしたいと考えるいくつかの項目を抜粋し、全国平均との比較を示します。詳しくは国立教育政策研究所HPにも「令和3年度 全国学力・学習状況調査 報告書【質問紙調査】」(<https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/index.html>)として掲載されていますので、こちらもご覧ください。

### ○挑戦心・達成感等

「将来の夢を持っていますか」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようになっていますか」「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」という質問に、肯定的な回答をしている児童が、

全国平均より 10 ポイント以上高い。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」「人が困っているときは、進んで助けようとしている」など、自分の力を社会貢献へ繋げていこうとする意欲の高さが伝わってくる。

#### ○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答している児童の割合が高い。これは、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」と、教科学習以外の場面を問う質問に対しても、全国平均を大きく上回る結果となっている。自分の考えを持ち、友達の話や意見を最後まで聞き、自分の考えをさらに深め広げて考えることができる力、話し合ったことを生かしていく力が育ってきていることがうかがえる。

#### ○学習習慣・学習環境等

「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」について、肯定的な回答が全国平均を上回っている。これは、昨年4～5月の臨時休校期間に関する質問「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」でも、同様の傾向が見られ、学習習慣が身についている児童が多いことがわかる。

#### ○基本的生活習慣等

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答している児童の割合が、全国平均より多い。これは、「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」の質問に対し、肯定的な回答が多かったことに繋がる。

### 5 質問紙調査からの改善点

「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」等、ICTを活用した学習については、あまり芳しくない状況が明らかになった。

本年度は、GIGAスクール構想における一人一台端末の試行開始ということもあり、校内での研究テーマを「主体的に学ぶ子供の育成～ICTの活用を通して」として取組を始めている。授業のねらいに迫るために、学習活動のどの部分でICT機器を活用していくのかなど、さらに有益な活用場面を探っていきたい。

一方、一人一台端末における新たな課題も危惧される。甲府市で導入しているChromebookは、使用的ログ（記録）が残るため、「いつ変更・修正されたかのか全て把握できる」「間違って消しても復元ができる」など科学的理理解に基づいたリテラシーの習得、ID・PASSの自己管理、情報モラルの育成なども併せて進めていきたい。9月から延期となってしまったオレンジスマイル安全安心教室「ゲーム・インターネット（24年）」「情報モラル教室（56年）」等も、今期中の実施を計画している。

### 6 ご家庭の皆様へ

質問紙調査からは、本校6年生のとても充実した日々の生活の姿が見えてきます。多くの仲間とかわり、そのなかで互いを高め合う姿。自分と仲間に大切にし、共に力を合わせる姿。学びの楽しさを感じ、主体的に学習に取り組む姿。どの姿にも、目を輝かせながら活動する子どもたちの様子が表れています。まさに本校の教育目標「自ら学び 認め合い支え合う 健やかな子」を体現しているのが石田小学校の6年生です。そして、それを支えているのが、家庭での愛情あふれる温かな環境です。今後とも、子どもたちの成長を願い、学校と家庭が手を携え歩んでいけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。